

たのしいプリントだ！



たしざんをしましょう。

$1 + 6 =$

$6 + 6 =$

$2 + 6 =$

$7 + 6 =$

$3 + 6 =$

$8 + 6 =$

$4 + 6 =$

$9 + 6 =$

$5 + 6 =$

$8 + 6 =$

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
---	---	---	---	----	----	----	----	----	----

たしざんをしましょう

$6 + 6 =$

$3 + 6 =$

$9 + 6 =$

$1 + 6 =$

$2 + 6 =$

$7 + 6 =$

$5 + 6 =$

$3 + 6 =$

$4 + 6 =$

$8 + 6 =$

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

線^{せん}でむすびましょう。

ひと くち
人の口に

わ なお
我がふり直せ



ひと み
人のふり見て

とる



ひゃくぶん
百聞は

いかぬ



ひと すじ
一筋なわで

と た
戸は立てられぬ



ずもう
ひとり相撲を

いっけん
一見にしかず



口コモ 9-4

なまえ

線^{せん}でむすびましょう。

ひとすじ
一筋なわで

いっけん
一見にしかず



ひやくぶん
百聞は

わ
我がふり直せ
なお



ひとくち
人の口に

とる



ずもう
ひとり相撲を

いかぬ



ひと
人のふり見て

と
戸は立てられぬ
た



口コモ 9-5

なまえ

線^{せん}でむすびましょう。

ひとり^{ずもう}相撲を
とる

うわさ話^{ばなし}をふせぐのは
むりだ



ひと^{すじ}一筋なわで
いかぬ

人の行^みいを見て、自分^{じぶん}の
行^{おこな}いに気^きをつけよう



ひやく^{ぶん}百聞は
いっ^{けん}一見にしかず

ひとり
一人ではりきって、
からまわり



ひと
人のふり^み見て
わ^{なお}我がふり直せ

ふつうのやりかたでは
だめだ



ひと^{くち}人の口に
と^た戸は立てられぬ

ひと^め一目見たら、よくわかるね



口コモ 9-6

なまえ

せん
線でむすびましょう。

ひと
人のふり見て
わ
我がふり直せ

た にん おこな み じぶん
他人の行いを見て、自分の
おこな
行いを改めよということ。



ひと くち
人の口に
と
戸は立てられぬ

じぶん
自分ひとりのはりきって
むなしい結果に終わること。



ひやく ぶん
百聞は
いっ けん
一見にしかず

ふつう
普通のやり方ではうまく
いかないこと。



ひと ずもう
ひとり相撲を
とる

ひと はなし なん ど き
人の話を何度も聞くより
いち ど じぶん み ほう
一度自分で見た方がよい。



ひと すじ
一筋なわで
いかぬ

せ けん
世間のうわさを防ぐこと
はむずかしい。



口コモ 9 - 7

なまえ _____

かけざんをしましょう。

$$7 \times 1 = 7$$

$$7 \times 2 =$$

$$7 \times 3 =$$

$$7 \times 4 =$$

$$7 \times 5 =$$

7 14 21 28 35

口コモ 9 - 8

なまえ _____

かけざんをしましょう。

$$7 \times 5 =$$

$$7 \times 6 =$$

$$7 \times 7 =$$

$$7 \times 8 =$$

$$7 \times 9 =$$

35

42

49

56

63

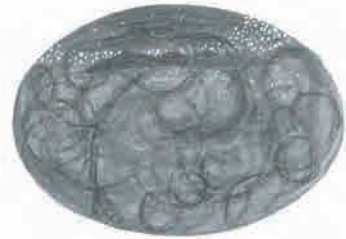
口コモ 9-9

なまえ

線^{せん}でむすびましょう。

かど で
門を出れば

さ ど よこ
佐 渡 に 横 た う
あま がわ
天 の 川



あか
赤とんぼ

つくば くも
筑波に雲も
なかりけり



あらうみや

われ ゆ ひと
我 も 行 く 人
あき
秋 の くれ



口コモ 9 - 10

なまえ

線^{せん}でむすびましょう。

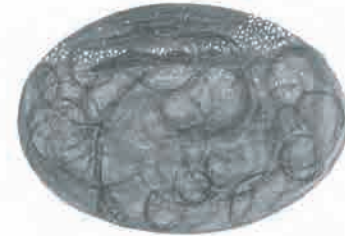
あらうみや

われ も 行く 人
あき の くれ



かど で
門 を 出れば

さ だ に 横 た う
あま が わ
天 の 川

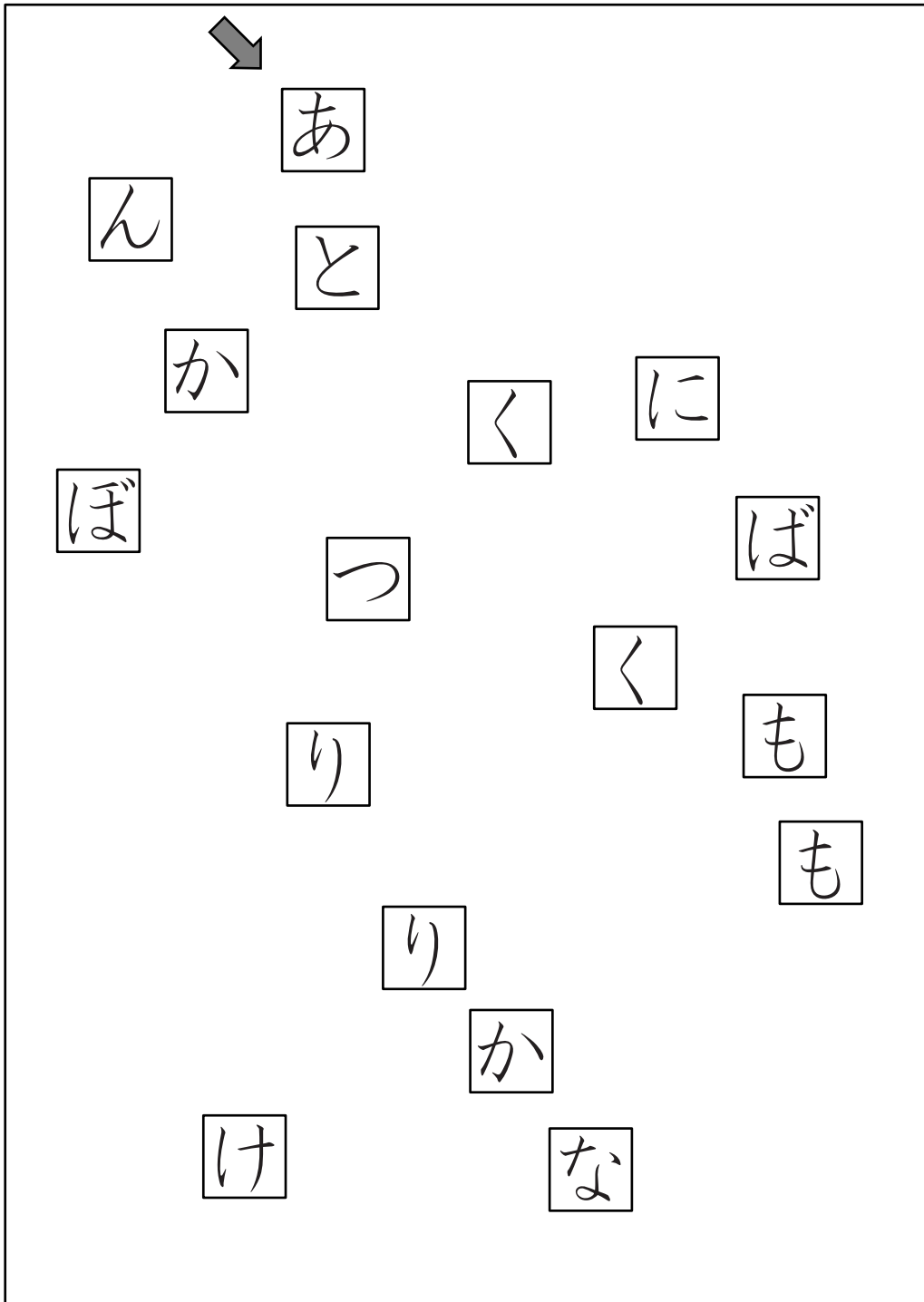


あか
赤 と ン ぼ

つくば くも
筑波 に 雲 も
なかりけり

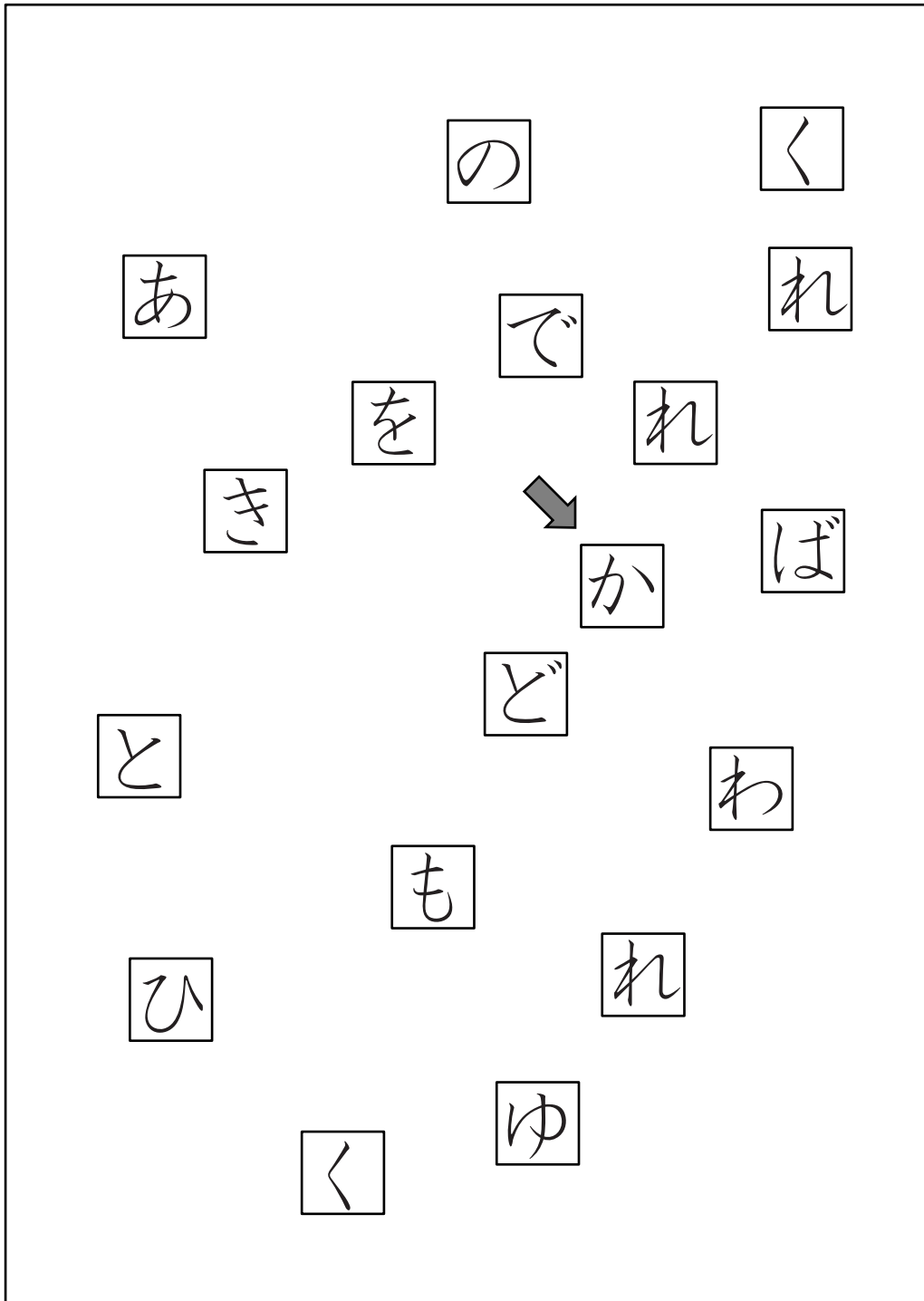


線^{せん}でむすびましょう。



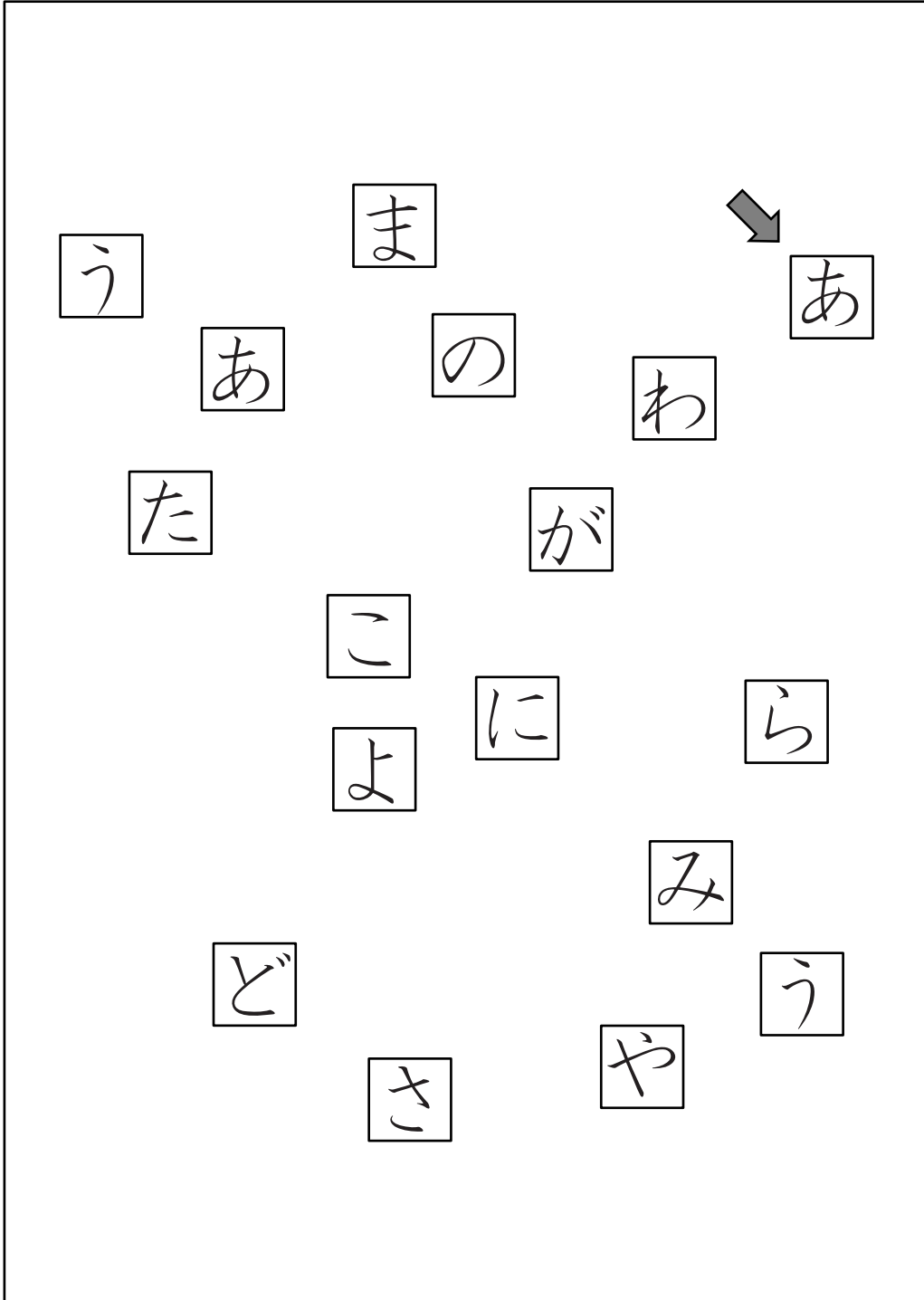
あかとんぼつくばにくもも……

せん
線でむすびましょう。



かどをでれば……

せん
線でむすびましょう。



あらうみや
.....

□の中に文字をいれ、俳句をつくりましょう。

		つ	か
		□	と
		ば	ん
	な	に	□
	□	く	
	り	□	
	け	も	
	□		

正岡子規 まさおかしき

□の中に文字をいれ、俳句をつくりましょう。

か

ど

れ

も

あ

れ

く

ば

の

と

く

れ

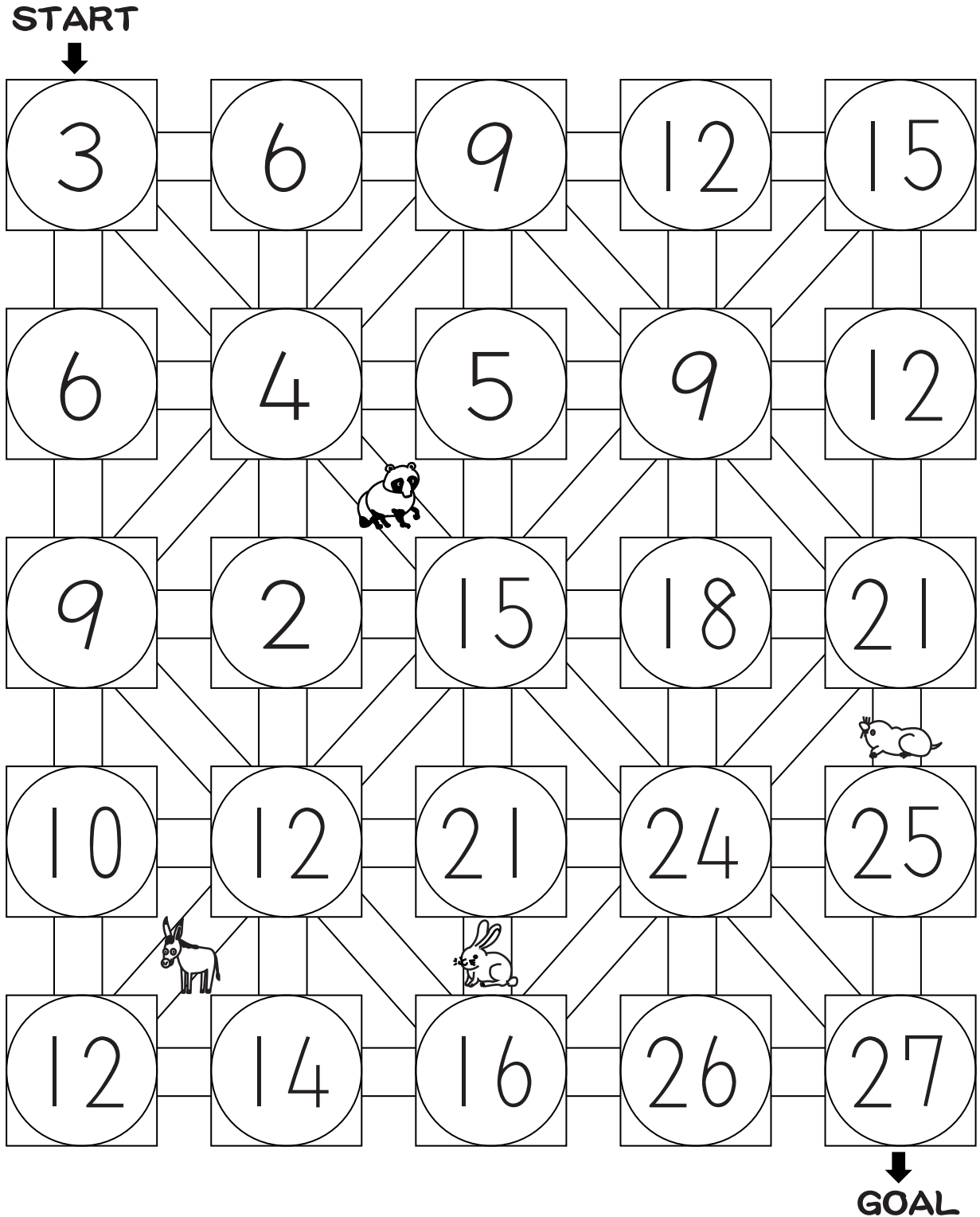
与^よ
謝^さ
蕪^ぶ
村^{そん}

□の中に文字をいれ、俳句をつくりましょう。

			あ
		□	ら
		ど	□
		に	み
		□	や
	あ	こ	
	ま	□	
	□	う	
	□		
	わ		

松^{まつ}
尾^お
芭^ば
蕉^{しょう}

3とびで、GOAL までいきましょう。

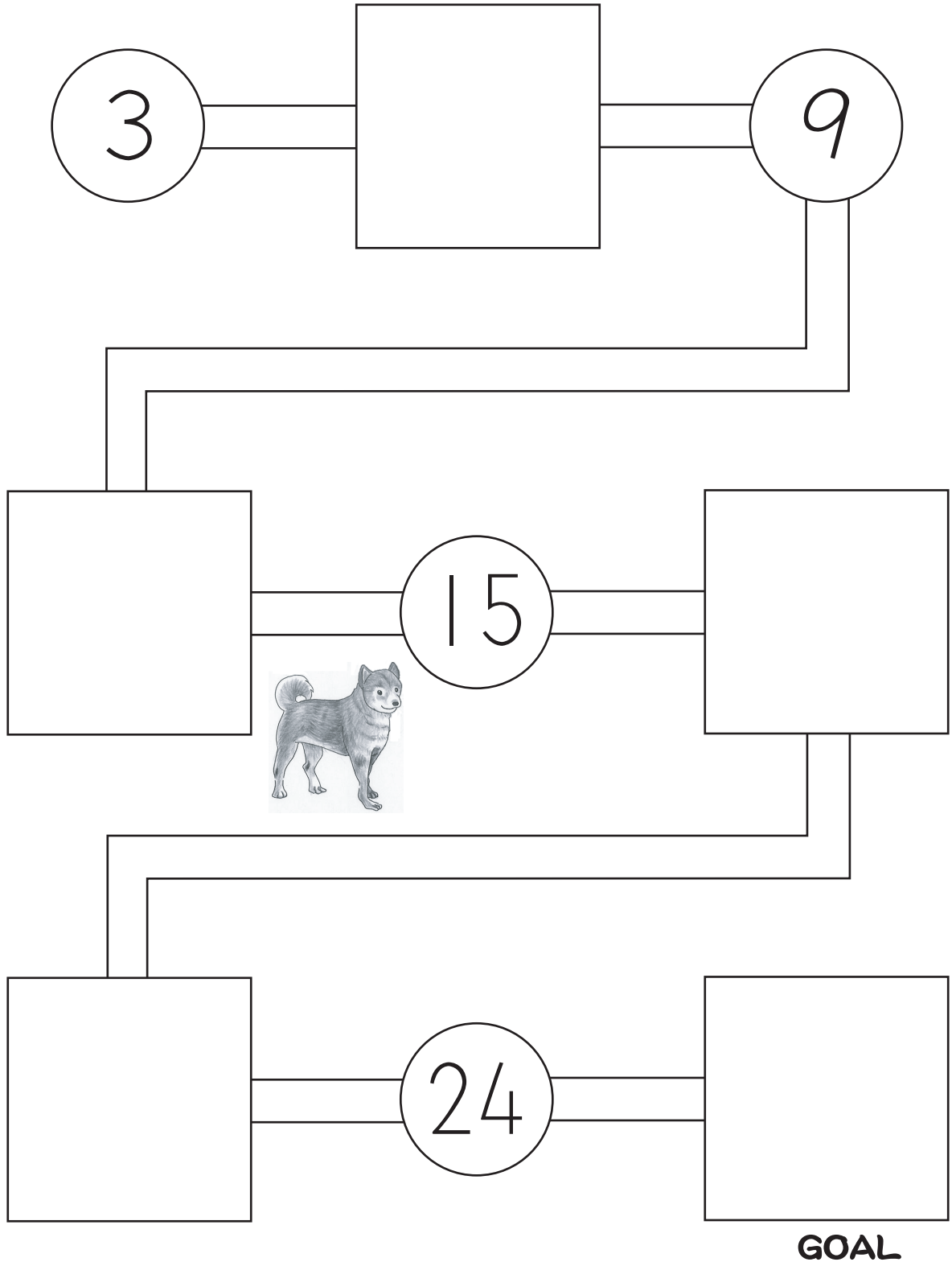


口口モ 9-18

なまえ _____

あいている□の中なかに3とびで数字すうじをかきましょう。

START



線^{せん}でむすびましょう。

はら
腹

な
が鳴る



て
手

あ
が空く



うで
腕

さぐ
を探る



口コモ 9-20

なまえ

線^{せん}でむすびましょう。

て
手が空く

じぶん ちから はや はっき
自分の力を早く発揮
したいな



うで
腕が鳴る

こころ なか
心の中ではどうなの
かな



はら
腹を探る

なに
何もすることがない



線^{せん}でむすびましょう。

なまえ

はら^{はら}をさぐ^{さぐ}
腹を探る

じぶん^{じぶん}うで^{うで}まえ^{まえ}み^み
自分の腕前を見せたくて
うずうずすること。



て^てがあ^あく^く
手が空く

それとなく^{あいて}相手^{こころ}の心^{なか}の中^{なか}を
うかがうこと。



うで^{うで}がな^なる^る
腕が鳴る

しごと^{しごと}き^きめ^めができて^{ひま}暇^{ひま}に
なること。



下から選んで慣用句をつくりましょう。

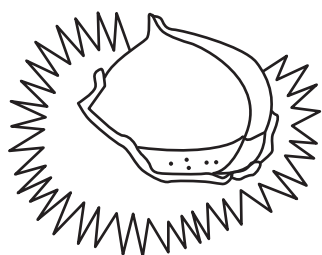
な
が鳴る

あ
が空く

さぐ
を探る

うで はら て

おじいさんが、^{やま}山で^{さが}探してきてほしいと
おばあさんにたのまれていたのは^{なん}何ですか。



くり



きのこ



たけのこ



^{さん}山 ^{さい}菜

^{わか}若くなっ^みたおじいさんを見て、おばあさんは
どうして^{ほんもの}本物のおじいさんだとわかりましたか。



- 1 おじいさんの^{こえ}声にそっくりだったから。
- 2 ^{かお}顔がそっくりだったから。
- 3 ^き着ていた^{きもの}着物や^も持っていたかごが、おじいさんのものだったから。

ロコモ 9-25

なまえ

せん
線でむすびましょう。

かささぎの

わた せる はし におく しも
渡せる橋に置く霜の

やま おく
山の奥にも

しか な
鹿ぞ鳴くなる

かぜ
風をいたみ

いわ なみ
岩うつ波のおのれのみ

もの
くだけて物を

おも う
思ふころかな

よ なか
世の中よ

みち おも いい
道こそなけれ思ひ入る

こい
恋ぞつもりて

ふち
淵となりぬる

つく ば ね
筑波嶺の

みね お がわ
峰より落つるみなのがわ

しろ み
白きを見れば

よ ふ
夜ぞ更けにける

口コモ 9-26

なまえ

せん
線でむすびましょう。

風をいたみ

いわ なみ
岩うつ波の おのれのみ

しろ み
白きを見れば

よ ふ
夜ぞ更けにける

つく ば ね
筑波嶺の

みね お がわ
峰より落つる みなのがわ

く だけ て もの
くだけて物を

おも う
思ふころかな

かさ さ ぎ の

わた はし お しも
渡せる橋に 置く霜の

やま おく
山の奥にも

しか な
鹿ぞ鳴くなる

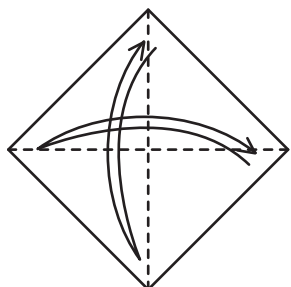
よ なか
世の中よ

みち おも い い
道こそなけれ 思ひ入る

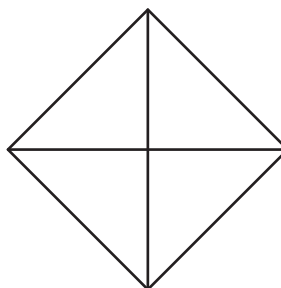
こい
恋ぞつもりて

ふち
淵となりぬる

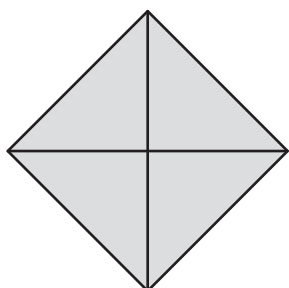
《かざぐるま》



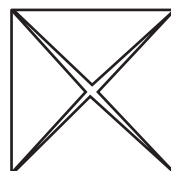
1 たてよこに さんかくに おって
もとに もどす。



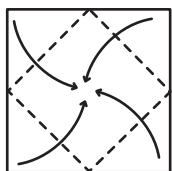
2 うらがえす



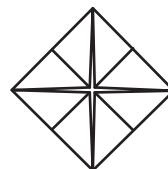
3 かどが まんなかに くる
ように おる



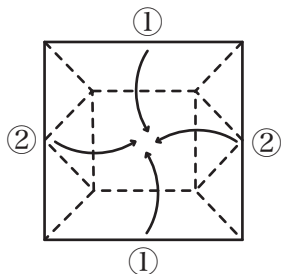
4 うらがえす



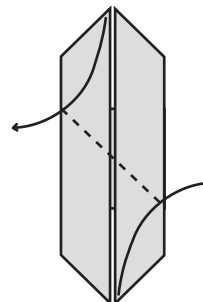
5 もういちど かどが まんな
かに くるように おる



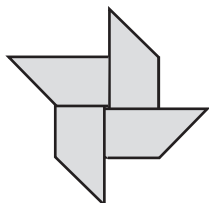
6 ぜんぶひらいて もとに
もどす



7 ①を どうじに まんなかで あわ
せながら、②どうしを まんなかで
くっつける



8 ななめに おる



かざぐるまの かんせい